

高齢者にこそ受けてほしい『肺がん検診』



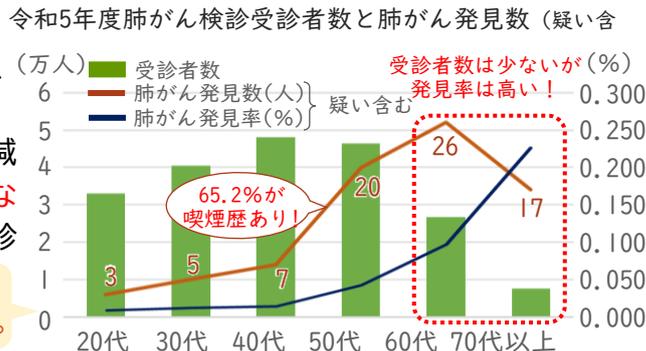
↑↑↑
ホームページには
健康情報が
盛りだくさん!



◆肺がんの罹患リスクが高い人が検診を受けていません

当協会では肺がん検診を受けた約20万人のうち(令和5年度)、78人が「肺がん」または「肺がんの疑い」と診断されており、その数は50代から急増しています。一方で、肺がん検診の受診者数は、60代から退職などの影響もあるのか急激に減少しています。肺がんは年齢が高くなるほど罹患率が高くなるにもかかわらず、実際には肺がんのリスクが高い人が検診を受けていません。

70代以上は発見数が減少していますが、受診者数が少ないことが影響しています。



◆喫煙は肺がんの最大のリスクです

肺がんの原因は様々ですが、その最大の原因は喫煙です。喫煙者は非喫煙者と比べて肺がんになるリスクが男性で4.4倍、女性で2.8倍高くなる※1といわれており、中でも喫煙指数(1日平均喫煙本数×喫煙年数)が600以上の人は肺がんの高危険群とされています。 ※1 国立がんセンター がん対策研究所 JPHC Studyより



受動喫煙(喫煙者のタバコの煙を吸うこと)でも肺がんのリスクが増加します。夫からの受動喫煙で、タバコを吸わない妻の肺がんリスクが上昇することも報告されています



◆早期発見には肺がん検診が重要!

肺がんは、がんの中で最も死亡数が多い病気です。その理由は、①胸部X線検査では早期のがんを発見しにくい②喫煙率が高いため患者数が多い③治療効果に限界がある、などがあげられます。そのため肺がんの死亡数を減らすには、①禁煙と受動喫煙の防止 ②早期発見のためのがん検診受診 ③「要精密検査」と判定された際の医療機関の受診、が重要です。

【喫煙状況と肺がん検診ガイドライン2025年度版で推奨される検査の種類】

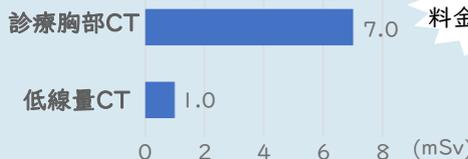
	タバコを吸わない人 または時々吸う人	タバコをたくさん吸う人※2またはたくさん吸っていた人※3
検査の種類	胸部X線検査	胸部X線検査 低線量CT検査
年齢※4	40~79歳	40~49歳、75~79歳 50~74歳
受診間隔	1年に1回	1年に1回 1年に1回

※2 喫煙指数(1日平均喫煙本数×喫煙年数)が600以上の人 ※3 過去の喫煙指数が600以上で、禁煙から15年以内の人
※4 自治体の肺がん検診は対象年齢に上限がないため、80歳以上でも受診可能です。また、低線量CT検査に関してもご希望があれば年齢を問わず受診いただけます。

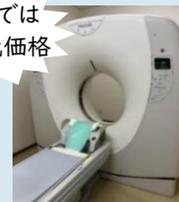
＼低線量CT検査は安全!安心!／

低線量CT検査は、一般的なCT検査より少ない被ばく線量で撮影でき、従来の胸部X線検査では発見しにくい初期のがんを発見することができます。検査は約5分と短時間で、検査による痛みがなく、安心して受診いただけます。

【CT検査の被ばく線量比較】

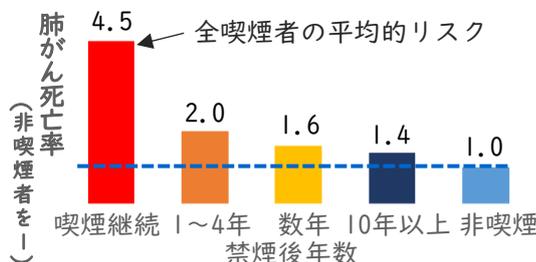


当協会では
料金も低価格



◆がんを予防するために「禁煙」を!

禁煙すればすぐに肺がんリスクが生涯非喫煙者と同レベルになるわけではなく、それには禁煙後15年ほどかかります。しかし、禁煙後数年でリスクは低下し、禁煙年数が長いほどがん罹患リスクは減りますので、ぜひ禁煙しましょう!!



咳や痰が続いたり、息苦しさなど気になる症状がある場合は、次の検診を待たず速やかに医療機関を受診しましょう。